

# 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：精神保健費

## 事業名 ひきこもり地域支援センター事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 精神保健福祉係 電話番号：058-272-1111(内3313)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,381 千円 (前年度予算額： 8,489 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,489	4,244	0	0	0	0	0	0	4,245
要求額	8,381	4,190	0	0	0	0	0	0	4,191
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

内閣府の調査では、15歳～64歳の生産年齢人口において推計146万人、50人に1人がひきこもり状態<sup>※1</sup>と言われ、長期化と高齢化が社会問題となっている。

ひきこもりの状態が長期化すると、年齢に応じた社会体験の機会が奪われ、自立した生活が困難となり、生活保護者の増加につながる可能性が高い。

当県は平成28年6月に精神保健福祉センター内に「ひきこもり地域支援センター」(以下「センター」という。)を開設し、関係機関と連携した支援を展開している。

※1：令和4年度調査

### (2) 事業内容

#### ■ひきこもり地域支援センター設置運営事業

##### ア 相談支援事業

- ・当事者や家族への個別相談、グループミーティング
- ・精神科医師による医療アセスメント事業
- ・ライフプラン研修会
- ・圏域ごとの居場所づくり
- ・オンライン居場所
- ・居場所事業者との居場所ネットワーク会議の開催
- ・伴走型ひきこもり支援

##### イ 普及啓発事業

- ・県民向け「ひきこもりサポーター養成講座」の開催、受講証発行
- ・「相談啓発リーフレット」の増刷

- ウ 人材養成事業
  - ・支援者研修会、保健所や市町村のケア会議への参画と技術支援
  - ・ひきこもり支援コーディネーターの研修受講及び国会議参加
  - ・多職種専門支援チームの派遣、市町村における居場所立ち上げ支援
- エ 支援体制整備事業
  - ・ひきこもり地域支援連携会議、ひきこもり圏域会議の開催
- オ ひきこもりピアサポーター養成研修

### (3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	904	講師、連携会議委員の報償費
旅費	550	連携会議委員の費用弁償／センター職員旅費
需用費	429	消耗品費、公用車燃料代、会議費、相談カード・認定証作成
役務費	181	通信運搬費、グループミーティング保険料
委託料	6,219	圏域居場所事業、オンライン居場所事業、伴走型支援
使用料及び賃借料	56	オンライン用機材
負担金	42	全国ひきこもり地域支援センター連絡協議会負担金
合計	8,381	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 国・他県の状況

厚生労働省「ひきこもり支援推進事業実施要綱」に基づき実施

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
ひきこもりに悩む当事者や家族を、適切な支援に結び付けることを目的に、ひきこもり地域支援センターを設置し、関係機関と連携して、当事者の自立を支える。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

### ○指標を設定することができない場合の理由

相談支援を中心とした業務のため、目標値を設定することになじまない。

### （これまでの取組内容と成果）

令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談、当事者及び家族のグループミーティング、医療アセスメント、研修会等を開催。</li> <li>各圏域で居場所事業を開催。（R4年度167回延べ604名参加）</li> <li>多職種専門チームの派遣を実施。（R4年度6件）</li> <li>ひきこもりサポーター養成研修を実施（R4年度3名登録）</li> </ul>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談、当事者及び家族のグループミーティング、医療アセスメント、研修会等を開催。</li> <li>各圏域で居場所事業を開催。（R5年度152回延べ687名参加）</li> <li>多職種専門チームの派遣を実施。（R5年度5件）</li> <li>ひきこもりサポーター養成研修を実施（R5年度2名登録）</li> </ul>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談、当事者及び家族のグループミーティング、医療アセスメント、研修会等を開催。</li> <li>各圏域で居場所事業を開催。（R6年度156回延べ795名参加）</li> <li>多職種専門チームの派遣を実施。（R6年度5件）</li> <li>ひきこもりサポーター養成研修を実施（R6年度3名登録）</li> </ul>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	ひきこもりの方の背景は様々であることから、自立を支援するためには、課題に応じ、保健・医療・福祉・教育・労働・民間団体等々との連携を図りながら支援する必要がある。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	昨年同様、電話相談、面談相談、医療アセスメント事業、ともに高い件数で推移している。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	各圏域で相談会、居場所事業を実施しており、ひきこもり地域支援センターに来所できない方の相談、居場所事業参加の機会を作り、相談者数、利用者数を増やす工夫を行っている。

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内のひきこもりの支援機関の実態把握に努め、県民の身近な地域での支援体制構築を図る必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 切れ目のない支援を行えるようにするため、地域の関係機関(市町村、保健、福祉、教育関係者、民間支援団体など)との相互理解を深め、関係機関のネットワークを作り、県民の身近なところで継続して相談・支援が受けられるよう体制の整備を行う。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	【〇〇課】